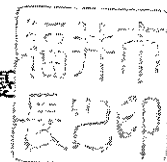




道 第 26号
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 殿

福井市長 坂川 優



道路整備中期計画作成にあたっての意見

平素より、福井市の道路整備事業推進に対しまして、格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。今回、道路整備中期計画作成に当たり、本市の意見を述べる機会をいただき有難うございます。

昨年平成18年は本市にとりまして、飛躍への可能性を開く大きな節目の年でありました。2月1日、美山町、越廼村、清水町と合併し、県都「新福井市」として27万市民が力強く歩み始めました。

各地域の将来にわたる持続的発展を図りつつ、各地域固有の歴史、産業、文化、風土などの多様性を大切にしながら「新福井市」としての一体感の醸成を図ることを目指しております

さらに、福井駅周辺など中心市街地を福井市の「顔」として都心の再生を図り、商業、文化、生活利便機能を高めつつ、新しい価値を創造する都市の実現が、緊急課題でございます。

こうしたことから本市では、中心市街地への都市機能の集積や周辺地域とのネットワーク化を進める「高感度コンパクトシティ」の実現に向け取り組んでいるところでございます。

そのためにも、最も基幹的な社会資本である道路整備や人と環境に優しい公共交通体系確立が緊急の課題と考えております。

以下、こういった観点から意見を申し上げます。

1 大都市圏との交流促進

○ 中部縦貫自動車の整備促進について(高規格幹線道路)

まず都市間競争に対応する路線として中部縦貫自動車道の建設促進が上げられます。北陸圏と首都圏を最短ルートで結び、中部内陸沿線地域の一体的な発展を図るうえで極めて重要な役割を担うものであります。そして、その入り口に位置する福井市にとって、大都市圏との交流や地域連携の強化を促進し、経済の活性

化や災害時の緊急輸送上欠くことのできない路線であり、永平寺大野道路、大野油坂道路の早期全線開通が悲願であります。

○ 福井外環状道路の早期着手について(地域高規格道路)

中部縦貫自動車道や国道8号など地域発展の核となり、都市間の連携や交流促進、広域拠点と連結する福井外環状道路の早期着手が必要と考えます。

2 福井の道30分圏構想に基づく整備について(地域間連携強化)

地域の生活を支える道路ネットワークの形成や、周辺町村の連携を強化する道路整備、住民の定住志向を支援できるような道路整備を推進することにより、活力あふれた地域づくりを目指しています。

市町村合併や消防行政の広域化構想などにより、さらに道路ネットワークの形成が重要視されていますが、福井市の現状は未だ不十分のため、今後も県と連携を取りながら整備計画を樹立したいと考えます。

一例を上げますと、国道158号旧美山町区間の一部では、家屋が密集し、幅員が狭くカーブが連続しているため、平成5年よりバイパス整備に着手しており、事業の早期完成を熱望します。

また、旧越廼村は市街地中心部から2.5Km位置にあります。しかし、中山間地を經由しているため、最も近い救急医療施設(福井赤十字病院 L=20Km)まで救急車両が1時間以上の時間を要し、時間短縮につながる道路整備が必要です。

3 地域を守るみちづくりについて

大雪、大雨など災害時においても、市民の日常生活や通学に支障をきたさないように道路交通を確保することが必要です。

特に、旧美山町上味見地区6集落150戸は国道476号を唯一の道路として生活していますが、大野市へのルートは冬期11月から翌年4月までの半年間、積雪凍結のため通行不能です。過去の豪雪時や平成16年7月の福井豪雨時には、福井へのルートまでもが通行不能となり、地域が孤立し、生活への不安が深刻な課題でございませう。トンネルによる国道158号への最短距離での連絡整備が必要です。

4 都市の再生について(歩行者のネットワーク)

誰もが安全に安心して社会参加できるバリアフリー構造の生活空間形成が重要であり、歩道ネットワークを構成するバリアフリー化に積極的に取り組んでいます。

今後、高齢者や身障者にもやさしい道路整備の中で取り組むべき課題です。

5 効率的・経済的な道路の利活用について

既存ストックの有効利用も大きな課題です。戦災・震災復興土地地区画整理事業によるまちづくりの中で整備してきた福井市内の多くの道路施設は、50年近くを経過し、老朽化が進行しています。今日、踏切対策、交差点改良を含む生活市道の適正な維持管理は、交通事故防止、安全安心の暮らしの確保上最優先課題となっています。

また、道路施設の老朽化対策、特に橋梁について、国は平成19年度以降本格的に取り組むとしていますが、福井市においても延長15m以上の橋梁は127橋、15m未満は1,415橋あり、長寿命化、コスト縮減は大きな課題です。

6 雪に強い道づくり

北陸地方に位置する福井市にとって、雪との戦いは大きな課題です。冬期間交通の確保のため、市民協力のもと1,630kmの除雪路線を指定し、市民の足を確保しています。

2m以上の積雪にみまわれた昭和38年、56年の豪雪。急速に進んだ高齢化と車社会の中での平成13年、17年大雪による被害は、記憶に新しく、改めて克雪への課題を再認識したところです。

雪寒指定道路については、国の補助を得て、除雪車の購入や消雪施設設置に取り組んでいますが、雪寒指定道路はわずか244km15%であり、平成17年度の除雪費用は12億円余になりました。雪寒指定基準の緩和による雪寒指定道路の拡大、除雪事業への支援をお願いいたします。

7 市街地の活性化及び円滑な移動手段の確保

人口減少・超高齢化社会の到来、地球環境への負荷軽減、財政的問題など、社会経済情勢の変化に対応するためには、市街地の活性化や公共交通の充実が重要です。

このため、本市ではコンパクトシティーを目指した「福井市中心市街地活性化基本計画」や既存鉄軌道のLRT化を始め総合的な公共交通体系を構築する「福井市都市交通戦略」を策定中でありますので、ご支援をおねがいします。

地域振興の基盤となり住民に最も密着した道路の計画的整備と活用及び適正な維持管理は福井市のまちづくりの基本と考えます。

今後も地方の意見に耳を傾けて、「地域の自立と競争力強化に直結する道路整備」に、積極的に支援されることを要望します。